

一般病棟入院基本料を算定する病院は、2006年5月から2007年5月にかけて、医療機関数が165、病床数が1万8,111床減少した。

		2006.5.1	2007.5.1	増減
一般病棟入院基本料	医療機関数	5,732	5,567	▲165
	病床数	723,484	705,373	▲18,111

過去1年間で、一般病棟入院基本料7対1を算定するところは、6.2%から23.1%に増加、特定機能病院では15.4%から36.5%に急増した。

	一般病棟入院基本料		特定機能病院入院基本料(一般)	
	2006.5.1	2007.5.1	2006.5.1	2007.5.1
届出病床数	723,484	705,373	61,068	63,484
7対1の病床数	44,831	162,730	9,382	23,178
比率	6.2%	23.1% (+16.9ポイント)	15.4%	36.5% (+21.1ポイント)

「7対1」についての日本医師会の主張

建議書(2007年1月31日)に「看護職員の募集・採用に当たって、地域医療の実情に配慮し、節度を持って行われるよう、強く期待したい」と記されたが、今日まで尊重されておらず大きな問題。

「7対1」の影響もあり、医療機関数、病床数が減少している。特定機能病院や大病院が「7対1」の算定を進めると、地方ではますます病棟が閉鎖される。

1. 「建議書」を踏まえて、あくまでも看護必要度で「7対1」を評価すべき。
2. 特定機能病院、主として大学病院が、行き過ぎた人員確保に走らないよう、特定機能病院は「7対1」の算定外とする